

# シリーズ 中学校武道 授業の充実に向けて②

## 剣道授業の実践報告と必修化の課題



香川県宇多津町立宇多津中学校教諭  
藤井 信行

本校は、平成24年度から実施される中学校体育における武道必修化に向けて、平成20年度から今年度まで3年間、文部科学省学校体育振興事業「中・高等学校における地域連携武道指導実践事業」の研究指定校となっている。  
研究課題としては、新学習指導要領に対応した武道（剣道）単元計画の在り方（年間指導計画における位置づけを含む）と、地域の武道指導者と体育担当教員との連携の在り方について実践することとした。

ここでは、前年度に本校が剣道の授業において実践した学習内容、指導法、成果や今後の課題について紹介したい。



### 1 はじめに

宇多津町は、香川県のほぼ中央にあり、北は瀬戸内海に面し、東は坂出市、西は丸亀市に隣接している。人口約1万6千人、世帯数6700、総面積は8km<sup>2</sup>である。町の中央を南北に大東川が流れ、東に聖通寺山と角山、西に青ノ山、南には飯野山があり、四方に緑の自然景観が広がっている。このような自然豊かな環境の中に本校は位置している。

### 2 地域連携武道指導実践事業の研究内容

本実践事業の研究内容は、以下の2つを重点項目とした。  
①新学習指導要領に対応した年間指導計画の作成と武道単元計画の在り方（年間指導計画における位置づけ）

②地域の武道指導者と体育担当教員との連携の在り方

#### （1）事業の具体的内容

まず、大学教授、宇多津町体育協会代表、地域の武道団体代表者・武道指導者、中学校長、保護者などからなる武道振興協議会を設置し、学校を中心とし

た武道振興の在り方を検討した（年間2回の会議）。

また、武道指導者を招聘し、地域の武道指導者や教員などの指導力向上のための講習会を実施し、教科体育における剣道授業の単元計画の立案、実施、課題の分析を行った。そして、10月に1、2年男子、11月に1、2年女子を対象に、それぞれ7時間、剣道の授業を実施した。

#### （2）期待される効果

本事業を行うにあたり、期待される効果としては、地域の武道指導者との連携による武道の振興、体育教員や武道部活動教員の指導力向上がまず挙げられる。また、文科省の事業を実践する中学校として、地域ばかりでなく全国のモデル的な取り組みを検討できること、教科体育における武道授業の単元計画や実

以上の留意点などについての課題が明らかになることなども期待された。

### 3 剣道授業の実践

#### (1) 剣道の単元計画

平成24年度より、教科体育において、武道は1、2年で男女ともに必修となる。そのため本校では先取りして、20年度から1、2年男女に剣道を履修させた。また、剣道は素足で行うために、実施時期は季節のよい2学期とした。

学習内容については、1、2年ともに全日本剣道連盟制定の「木刀による剣道基本技稽古法」を学習させた。

#### (2) 剣道学習の指導と評価

剣道学習の単元計画に合わせ、指導と評価が一体化するように、評価カード(資料1)を作り、

具体的観点別評価の仕方を考えた。この規準に従い、剣道学習の評価をすることとした。

また、生徒の学びの姿をみてその実現状況を判断するための資料や、努力を要する状況に対する指導の手だても作成した。

本町には、町剣道スポーツ少年団「宇多津剣道会」の指導責任者であり、香川県剣道連盟常任理事、綾歌郡剣道連盟会長の福原達先生(教士七段・75歳)が、中学校の近くに在住されている。現在は、仕事を退職されているので、町教育委員会と相談し、中学校体育剣道学習の講師をお願いした。福原先生も宇多津中学校の卒業生ということもあって、快く剣道授業の指導を引き受けてくれた。20年度は、剣道の学習時間には、男子が35時間、女子が35時間の計70時間指導していただいた。

福原先生と体育担当教員との指導関係であるが、T2に福原先生、T1に体育担当教員がついた。福原先生には、主に示範や巡回指導による技術指導、剣道や日本刀の歴史、礼の大切さを伝える講話などをお願いした。

#### (4) 剣道具や竹刀などの整備・充実

剣道の学習にとって、必要不可欠なものに、剣道具及び剣道着・剣道袴と竹刀がある。20年度は、剣道具(面、小手、胴、垂)と竹刀が整備されたが、前年度は、剣道の特性にいつそう触れさせるため、剣道着・袴を男女別に四十組、新規に購入した。

これらは地域連携武道指導実

#### 資料2 振り返り学習プリント

### 剣道の学習を振り返ってみよう

年	組	番	氏名	
---	---	---	----	--

◎…よくできた ○…できた △…もう少し

	自分	仲間から
関心 意欲 態度	剣道の練習を楽しむことができた。	
	授業時数 全7時間 参加( )時間 欠席( )時間 見学( )時間	
	毎時間の練習課題に対して意欲的に取り組んだ。	
	相手と協力して、互いに教え合って活動した。	
知識 理解	剣道の歴史と剣道具の付け方やしまい方がわかった。	
	基本動作、基本打突のしかたがわかった。	
	基本動作や基本打突の練習のしかたがわかった。	
技能	学習のはじめとくらべ、向上できましたか。	
	礼法	
	基本動作(礼、蹲踞、構え、足さばき、素振り)	
	面打ち	
	小手打ち	
	胴打ち	
	互角稽古	

剣道学習を終えて ○わかったことや ○気づいたことを書こう。

.....

.....

.....

.....

.....

践事業校に充てられた文部科学省の予算が使用された。

#### (5) 剣道学習提示資料の工夫

体育実技にとって、生徒用提示資料は、生徒の興味・関心を

高めたり、意欲を向上させるための重要なポイントになる。そこで、1単位時間ごとの、わかりやすい資料を、県版体育実技書を参考にして本校体育科で作成した。

左記の資料は、7時間目の授

#### 資料1 評価カード

### 剣道学習 評価カード1年

年	組	番・氏名	
---	---	------	--

○5点満点で自分で、つけてみよう。

5点：特によくできた。  
4点：よくできた。  
3点：できた。  
2点：あまりできなかった。  
1点：全然できなかった。

評価	内容	点
評価1	剣道の授業に意欲的に取り組めたか。	点
評価2	体操服忘れがなかったか。	点
評価3	剣道着・袴が正しく着装できるか。	点
評価4	正しく正座して、座礼ができるか。	点
評価6	竹刀の振り上げ・振りおろしが正しくできるか。	点
評価7	基本技稽古の最初の礼法が正しくできたか。 (立礼、揚げ刀、帯刀、3歩進んで蹲踞、立って中段、構えを解く、5歩下がって中段)	点
評価8	基本技稽古の最後の礼法が正しくできたか。 (中段、蹲踞、納め刀、立って帯刀のまま5歩下がる、帯刀から揚げ刀、立礼)	点
評価9	基本1 面、小手、胴が正しく打てたか、また打たせることができたか。	点
評価10	基本2 小手から面を連続して正しく打てたか、また打たせることができたか。	点
評価11	基本3 払い面が正しく打てたか、また打たせることができたか。	点
評価12	基本4 引き胴が正しく打てたか、また打たせることができたか。	点
評価13	最後の発表会で相手と協力して、技4本が正しくできたか。	点
合 計		点

剣道学習を終えての感想 努力した点や印象に残ったことなど具体的に書こう。

※2年生の場合は、評価13の前に基本5として『面抜き胴』が加わる

資料3 授業研究資料①

第2学年1・2組 女子 保健体育科学習指導案

平成21年度文部科学省学校体育振興事業  
「中・高等学校における地域連携武道指導実践事業」

＜ 研究課題 ＞

- ・ 新学習指導要領に対応した武道単元計画の在り方
- ・ 地域の武道指導者と体育科担当教員との連携の在り方

指導者 T1 教諭 田邊 容子  
T2 町体育剣道講師 福原 達

1 単元 武道（剣道）

2 単元について

(1) 剣道は、剣道具を着け、竹刀を持って相手と対し、互いに相手の動きや技に応じて打つ、かわすなどをしながら競争をする対人的競技である。そのための竹刀の操作や身体動作、相手との「攻め合い」などが重要となる。また、我が国古来の剣術から発生した競技であり、伝統的な礼法や行動の仕方、練習方法（稽古）を学びながら、安全に練習や試合が行えるよう相手を尊重する公正な態度が要求される。剣道は、武道の特性としての長い歴史を持つものであるが、学習指導要領の改訂で武道が必修となった今、日本古来の伝統のすばらしさに加え、対人的競技としての楽しさを感じさせることのできる運動領域といえる。

(2) 本学級は、1組16名、2組16名、計32名からなる。全体的に落ち着いて学習に臨んでいる。保健体育科の学習にも積極的に取り組む生徒が多い。剣道学習については、1年次に7時間行っている。実際に剣道具をつけて学習をしたのは4時間である。

生徒のアンケートによると、「剣道の授業が楽しかった」という生徒は23名であった。「楽しかった理由」は、◎初めてのことで楽しかった、◎声を出すことで気分がすっきりした、◎相手と向かい合っているとよくなった、などである。「楽しくない理由」としては、●剣道具をつけるのがめんどろ、●動きにくい、●暑くて重い、などである。しかし、多くの生徒は、剣道の持つ凛とした雰囲気を堅苦しいというよりも心地よいと感じ、剣道に対して肯定的な印象を持っていることがうかがえる。

(3) 指導にあたっては、地域武道指導者と連携を図りながら、次の点に留意して進めていきたい。  
①道着・袴を身に付けたり、剣道具を着脱したりするときは、2人組で行い、常にお互いで協力しあうことを意識させる。

②体ほぐし運動を取り入れ、凛とした空気を大切にしながらも、声を出しやすい雰囲気作りを心がけたい。

③「木刀による剣道基本技稽古法」（全日本剣道連盟制作）を教材とし、『形の習得』を柱としながら、学習を進めたい。その際、常に対人を意識させ、相手と向き合い、息を合わせる中で剣道の攻防の楽しさを味わわせたい。

3 学習指導目標

- (1) 常に対人を意識させ、2人組で、道着・袴の着脱、防具の着脱ができるようにさせる。
- (2) 正しい礼儀作法を身に付け、相手を尊重して意欲的に練習に取り組ませる。
- (3) 正しい基本動作を身に付け、正確で強い打突ができるようにする。

4 学習指導計画・・・全7時間

- (1) 道着・袴の着脱、防具の着脱 ……1時間
- (2) 礼法の確認、基本動作（構え、足さばき、素振り） ……1時間  
剣道基本技稽古法 基本1 一本打ちの技「正面」「小手」「胴」「突き」  
基本2 二・三段の技「小手→面」  
基本4 引き技 「引き胴（右胴）」 ……1時間（本時）  
基本5 抜き技 「面抜き胴（右胴）」 ……1時間  
基本8 返し技 「面返し胴（右胴）」 ……1時間
- (3) 2人組で発表練習 ……1時間
- (4) 発表会 ……1時間
- (5) 本時の指導目標

- (1) 目標
  - ・ 正しい基本動作で、大きな声を出して、正確に強く打つことができる。
  - ・ 基本4 引き技 「引き胴」の練習に意欲的に取り組むことができる。
- (2) 学習指導過程

学習内容及び学習活動	教師の支援活動や留意点	
	T1	T2
1 集合・あいさつをする。	○正しい礼法で行うように指導する。	○集合・整列させ、出席確認を行い、正しい礼法で座礼をさせる。
2 道着・袴の着脱、剣道具を着ける。（胴、垂のみ）	○ひもの結び方、締め具合等を巡回しながら指導する。	○2人組で協力しながら正しく着用させる。お互いに確認しながら進めさせる。
3 体ほぐし運動をする。 手刀で面・胴・小手	○生徒の様子を観察しながら助言する。	○簡単な体ほぐしをする中で、お互いの目を見て、大きな声を出せる雰囲気を作る。
4 対人で、素振りをする。	○足さばき、竹刀の振り方等技术的なポイントを説明する。	○巡回しながら、助言指導を行う。特に大きな声を出している組を賞賛する。
5 学習課題の確認をする。	基本4 引き技 「引き胴（右胴）」を習得しよう。	
6 基本4「引き技」の練習をする。 元立ち役 掛り手役を決める。	○引き技について示範を伴いながら説明する。 ○つばぜり合いからの引き胴の技のポイントを説明する。 ○全員に正面を向かせ、掛り手の動きを練習させる。 ○巡回しながら、技術指導を行う。	○T1の補助をしながら、補足して説明する。 ○巡回しながら、助言指導を行う。 ○全体の練習の様子を見ながら、よく声が出ている、動きが大きい組を賞賛する。
7 基本4「引き技」の発表をする。	○よくできている組を賞賛する。	○グループごとに発表させ、お互いの技を見ることで、意欲を持たせたい。
8 本時のまとめをする。	○練習の様子から見られる課題について話をし、まとめとする。	○本時の学習でよかった所をしっかりとほめ、次時への意欲付けとしたい。

業後に配布し、宿題として後日提出させた。学習ノートは毎時記入させ、使いやすいように、見開きで、右側には資料を、左側には学習内容や振り返りをするための欄を設けた。

平成21年9月30日の5校時に、



香川県中学校保健体育研究会・綾歌郡坂出市支部研究会において、剣道の研究授業を2時間（2年生女子、1年生男子1時間ずつ）を行い、地域の保健体育科の先生方約30名、さらには指

導助言者として山神眞一香川大 学教授に授業参観していただいた。

また、研究授業の後には、討議会を持ち、成果や今後の課題について話し合った。討議の内容は下記のとおりである。

(1) 2年生女子、剣道授業説明

（授業者の田邊教諭より）  
資料3

▽本時は7時間中の3時間目であった。昨年、剣道を経験しているもので、剣道具の着脱は容易であった。

▽今年度より、剣道着と袴を着用したが、生徒は興味を持って好んで着用している。

▽全日本剣道連盟により作成された「木刀による剣道基本技稽古法」の導入により、形稽古として、面や小手を着けずに学習させたが、課題がはっきりしているので取り組みやすかった。とくに、「元立ち」と「掛り手」の役割がしっかりと決められている点が指導

しやすかった。

▽授業で協力してもらった女子剣道部員3名の立ち居振る舞いが、とてもいいモデルになった。  
▽袴姿で正座をすることや、剣道具を紐で結ぶことなど、普段の生活ではしないことを経験できるよい機会となった。

(2) 1年生男子、剣道授業説明

（授業者・筆者より）  
資料4  
▽本時は7時間中の3時間目であった。

▽地域剣道指導者の福原先生と、指導内容や指導方法を検討しながら、常に連携を図った。

▽福原先生から、最終授業を終えて、「道場の子は目的意識を持って来ているが、授業で生徒に教えるのは難しい」との意見をもらった。授業になると、当然のことながら剣道に興味のない生徒、また、「痛い」など、あまりいいイメージをもっていない生徒も多く、導入の段階で学習意欲を高める

資料4 授業研究資料②

第1学年1, 2組男子保健体育科学習指導案

平成21年度文部科学省学校体育振興事業「中・高等学校における地域連携武道指導実践事業」  
 (研究課題)  
 ・新学習指導要領に対応した武道単元計画の在り方(年間指導計画における位置づけを含む)  
 ・地域の武道指導者と体育担当教員との連携の在り方

指導者 T1 教諭 藤井 信行  
 T2 町体育剣道講師 福原 達

1 単元 武道(剣道)

2 単元について

(1) 剣道の本来の特長を教育的に生かす観点からとらえると、剣道はスポーツとしての特性を持つ格闘形式の対人競技であり、その中でも用具を用いて行う運動としての特徴を持っている。そこで、剣道の特性をまとめると次のようになる。

- ①剣道は「竹刀」を用い「剣道具」を着けて相対し、「面」「小手」「胴」を打ち合うことによって勝敗を競う対人競技である。
- ②互いに相手の技や動きに応じて攻防し合うことから、「攻め方」「かわし方」などを工夫することによって、よりいっそう競争の楽しさが増す。
- ③我が国古来の剣術から発生した競技であり、伝統的な礼法や行動の仕方、稽古方法などがある。
- ④安全な競技を目指するため、剣道具を着用するとともに危険な技を禁止している。
- ⑤格闘的な競技のため、相手を尊重する態度や公正な態度が要求される。

剣道の特性を以上のようにとらえると、その学習指導において、技能の習得とともに伝統的な行動の仕方や練習の方法などを身に付け、技能の程度に応じた稽古ができるようにすることが大切である。特に⑤の特性は、本年度の本校教育テーマとも関連があり、重視したい。

(2) 生徒の事前アンケートの結果では、武道としての古典的な礼儀作法や稽古の仕方など、剣道をかなり堅苦しい感じとして受け止められている。しかし、授業の始まりで、竹刀を持って集合し、「腰を降ろして」というと、何も指示されないのに「正座」をするといった具合に、行動の仕方にひとつの「形」があるようにも感じている。その証拠に、剣道をするによって何を期待するかという効果の点では、「忍耐力」「決断力」「根性」など精神面と、「機敏さ」「姿勢」など体力に関する点、さらに「礼儀作法」など行動の仕方について高い関心を持っている。

(3) 以上のことから、地域武道指導者と連携を図りながら、次の点に留意して指導したい。

- ①7時間という限られた時間の中では多くのことを修得させることは難しい。したがって、ここでは、まず剣道の特性に触れさせるために、本年度購入した剣道着・袴の正しい着脱を身に付けさせたい。また、剣道具は付けさせずに「竹刀による剣道基本技稽古法」を学習させることによって、剣道の技と理合いも学ばせたい。
- ②礼儀作法など伝統的な行動の仕方や技を身に付け、相手を尊重し公正な態度をとれるようにさせたい。
- ③剣道着や竹刀、道場の安全を確かめ、禁止されている技や行為をしないなど健康・安全に留意させたい。

3 学習指導目標

- (1) 剣道着・袴の着脱ができ、正しい基本動作を身に付け、「竹刀による基本技」ができるようにさせる。
- (2) 正しい礼儀作法を身に付け、相手を尊重して意欲的に練習にとり組ませる。
- (3) 資料を参考にしたり相手との教え合いを通して、自らの課題を解決する方法を考えさせる。

- 4 学習指導計画・・・7時間
  - (1) 剣道講話・礼法・基本動作 ……1時間
  - (2) 剣道着・袴の着脱 ……1時間
  - (3) 形稽古「竹刀による基本技稽古」(礼法、面、小手) ……1時間(本時)
  - (4) 形稽古「竹刀による基本技稽古」(胴、突き) ……1時間
  - (5) 形稽古「竹刀による基本技稽古」(連続技) ……1時間
  - (6) 形稽古「竹刀による基本技稽古」(払い技) ……1時間
  - (7) 評価 ……1時間
- 5 本時の学習指導
  - (1) 主題 基本技1・一本打ちの技(面、小手)
  - (2) 目標 正しい基本動作で、基本技1(面、小手)ができる。

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
仲間と協力して基本技の練習に取り組むことができる。	資料を使ったり相手と教え合ったりして基本技の方法が工夫できる。	正しく基本技ができる。	基本技の方法や要領を理解できる。

(3) 本時の工夫点

竹刀による剣道基本技稽古(形稽古)を学習させることによって、剣道の技には相手の動きを観て、「しかけていく技」、「連続していく技」、「払っていく技」、「引き技」、「抜き技」、「すりあげ技」、「出ばな技」、「返し技」、「打ち落とし技」があることを理解させたい。

(4) 学習指導過程 (ゴシック体:学ぶ力を養う(自ら課題解決する力を養う), ●:「学ぶ力」を育むための支援)

学習内容及び学習活動	教師の支援活動や留意点
※ 剣道着・袴を着用する。 ※ 竹刀を準備する。 1 集合・あいさつをする。 2 準備運動・正面打ちをする。 3 学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2人組できちんと剣道着・袴を着用させる。T1</li> <li>○ 竹刀番号を確認させる。T1</li> <li>○ 正しい礼法で座礼をさせる。T1</li> <li>○ 教師が前に立ち、示範をしながら正面打ちを行わせる。T1</li> <li>○ 「基本1・一本打ちの技」を説明する。T2</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">竹刀による基本技稽古「基本1・一本打ちの技」を修得しよう。</div>	
(1) 形稽古の礼法の練習をする。 (2) 面打ちの練習をする。 (3) 小手打ちの練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 面打ち・小手打ちを段階的に指導する。T2</li> <li>○ 巡回しながら、助言指導を行う。T1</li> <li>● 相手と練習する中で、お互いの打ち方・受け方について話し合いをさせる。T1</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">評価【運動の技能(観察)】                      B 大きなかけ声で、面・小手・胴・突きを打ったり、打たせたりすることができる。(Aはそれ以上)                      C→指導者や経験者が元立ちとなり、基本技を打ち込ませる。</div>	
4 本時のまとめ・あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 良くできていた組を例に取り上げ賞賛する。T1</li> <li>○ 学習カードに、本時の学習の自己評価をさせる。T1</li> <li>○ きちんと剣道具室に片付けできたかを確認する。T1</li> </ul>
5 竹刀・剣道着、袴を片付ける。	

▽ 工夫が必要であると感じた。  
 ▼ 7時間の学習時間では、基礎的、基本的内容の定着が難しかった。

(3) 他校の先生方の感想  
 ▼ 剣道着・袴及び剣道具を正しく着脱できるよう適切な支援ができていた。  
 ▼ 正しい基本動作で、大きな声を出して強く打てるよう支援ができていた。  
 ▼ 技能指導は、段階的に説明・指導した方が定着するのではないか。  
 ▼ 生徒二人で協力して、剣道具の着脱がスムーズにできていた。ゆくゆくは一人でできるようになるといい。

(4) 山神教授による指導・助言  
 ▼ 宇多津町は、戦後いち早く県下で、剣道を復興させた地域である。その意味からも、地域連携がやりやすい環境にある。  
 ▼ 凛とした雰囲気での学習が進められていた。  
 ▼ 資料揭示も豊富で、生徒がよくわかるように提示ができていた。  
 ▼ 地域武道指導者の福原先生が一生懸命指導してくださり、その「存在の大きさ」がよくわかった。  
 ▼ 難しい剣道用語で説明するより、示範して見せた方が、残像が残り、効果がある。  
 ▼ 抜き技を取り入れてほしい。剣道は対人的運動なので、常に相手の動きを意識するが大切である。  
 ▼ 示範と、言葉での伝え方、両方の研究をしていく必要がある。  
 ▼ 剣道の特性を考えた「体ほぐし」の運動を考えてほしい。  
 ▼ 武道指導実践事業校のオリジナルティーを出してほしい。

資料6 指導計画(2年生)

平成21年度 地域武道連携事業 2年男女剣道授業実施計画  
 ○学校準備物 竹刀 剣道着 袴 剣道用具 実技教科書 筆記用具  
 ○生徒準備物 授業用体操服

段階 時間	はじめ		なか				まとめ
	1	2	3	4	5	6	7
0	集合・あいさつ	集合・あいさつ	集合・あいさつ	集合・あいさつ	集合・あいさつ	集合・あいさつ	集合・あいさつ
5	1オリエンテーション VTR視聴 ①剣道の試合 ②基本技稽古	1剣道着・袴を着装する。 2準備運動・素振り	1剣道着・袴を着装する。 2準備運動・素振り	1剣道着・袴を着装する。 2準備運動・素振り	1剣道着・袴を着装する。 2準備運動・素振り	1剣道着・袴を着装する。 2準備運動・素振り	1剣道着・袴を着装する。 2準備運動・素振り
10	2剣道着・袴の着装法 ・剣道着の着方 ・袴のはき方	3剣道基本技稽古(竹刀使用) 基本1 (一本打ちの技) ①「礼法」 立礼・3歩前・蹲 ・5歩後・立礼	3剣道基本技稽古・基本1 ①「面」「小手」 の復習	3剣道基本技稽古 ①基本1の復習 「面」「小手」「胴」 の復習	3剣道基本技稽古 ①基本1～3の 復習	3剣道基本技稽古 ①基本1～4の 復習	3発表会(評価) 基本1～6の発表
15		②「正面」の打ち 方・受け方 ③「小手」の打ち 方・受け方 ※元立ちと掛り 手	基本2 ②連続技 「小手・面」	基本4 ②引き技 「引き胴」	基本5 ②抜き技 「面抜き胴」		
20		3剣道着・袴の の片付け方 ・剣道着 ・袴	③「面」「小手」 「胴」	基本3 ③払い技 「払い面」	基本6 ③「面返し胴」 ③基本1～6まで の復習		
25		4剣道用具の着装 「垂」「胴」のみ	④発表 基本1	④発表 基本1～3	④発表 基本1～4		
30							
35							
40							
45	4本時のまとめ あいさつ	4本時のまとめ あいさつ	4本時のまとめ あいさつ	4本時のまとめ あいさつ	4本時のまとめ あいさつ	4本時のまとめ あいさつ	4本時のまとめ あいさつ
50	片付け・解散	片付け・解散	片付け・解散	片付け・解散	片付け・解散	片付け・解散	片付け・解散

資料5 指導計画(1年生)

平成21年度 地域武道連携事業 1年男女剣道授業実施計画  
 ○学校準備物 竹刀 剣道着 袴 実技教科書 筆記用具  
 ○生徒準備物 授業用体操服

段階 時間	はじめ		なか				まとめ
	1	2	3	4	5	6	7
0	集合・あいさつ	集合・あいさつ	集合・あいさつ	集合・あいさつ	集合・あいさつ	集合・あいさつ	集合・あいさつ
5	1オリエンテーシ ョン VTR視聴 ①剣道の試合 ②基本技稽古	1前時の復習 ①構え(中段) ②足さばき ③素振りの復習	1剣道着・袴を 着装する。 2準備運動・ 素振り	1剣道着・袴を 着装する。 2準備運動・ 素振り	1剣道着・袴を 着装する。 2準備運動・ 素振り	1剣道着・袴を 着装する。 2準備運動・ 素振り	1剣道着・袴を 着装する。 2準備運動・ 素振り
10	2礼法 ・立礼・座礼	2剣道着・袴の 着装法 ・剣道着の着方 ・袴のはき方	3剣道基本技稽 古(竹刀使用) 基本1 (一本打ちの技) ①「礼法」 立礼・3歩前・蹲 ・5歩後・立礼	3剣道基本技稽 古・基本1 ①「面」「小手」 の復習	3剣道基本技稽 古 ①基本1の復習 「面」「小手」「胴」 の復習	3剣道基本技稽古 ①基本1, 2, 3の 復習	3発表会(評価) 基本1～4の発表
15		3基本動作 ①構え(中段) ・竹刀の持ち方 振り方 ・足の構え	②「胴」の打ち 方・受け方 ※元立ちと掛り 手	基本2 ②連続技 「小手・面」	基本4 ②引き技 「引き胴」		
20		②足さばき 前後・左右	③「面」「小手」 「胴」	基本3 ③払い技 「払い面」	基本6 ③「面返し胴」 ③基本1～6まで の復習		
25		③素振り ・上下振り ・正面素振り ・左右面素振り	④発表 基本1	④発表 基本1～3	④発表 基本1～4		
30							
35							
40							
45	4本時のまとめ あいさつ	4本時のまとめ あいさつ	4本時のまとめ あいさつ	4本時のまとめ あいさつ	4本時のまとめ あいさつ	4本時のまとめ あいさつ	4本時のまとめ あいさつ
50	片付け・解散	片付け・解散	片付け・解散	片付け・解散	片付け・解散	片付け・解散	片付け・解散

5 生徒の感想

本年度の剣道授業を終え、生徒から次のような感想があった。

- 初めての剣道学習を振り返って思っていたより、難しかったのでビックリした。
- ▽「面」や「小手」などの名前は知っていたけど、どうやって打つのか知らなかったのでもワクワクした。
- ▽足さばきや構えは、忘れてしまふことがあった。
- ▽剣道は難しさの中に、楽しさがあることがわかった。
- ▽礼儀作法など、ふだんでは絶対に味わえない貴重な体験ができてよかった。
- ▽剣道学習で学んだことを活かしていきたい。
- ▽剣道着、袴及び剣道具の着装は、すべて紐で結ぶので、きちんと結ばなければならない

- 剣道の楽しかったところ、おもしろかったところ
- ▽対人で練習するのがおもしろかった。
- ▽胴を打つとき「パーン」という音がするので楽しかった。
- ▽足さばきができるようになったとき、うれしかった。
- 剣道の難しかったところ、嫌だったところ
- ▽剣道具など一人で着けるのは難しかった。
- ▽素振りの時、面の高さで止めるのが難しかった。
- 福原先生へのメッセージ
- ▽ふだんの生活では聞けないような貴重なお話を聞かせていただきありがとうございます。
- ▽剣道はあまり知らなかったけれど、この7時間でぐっと身近に感じるようになりました。
- ▽「礼」の大切さを知ることができた、剣道の楽しさが味わえたのでよかった。



形の学習により、剣道の技と理合いを学ばせたい

ことがわかった。  
 ▽剣道は、「礼に始まり、礼に終わる」ことの意味がよく分かりました。  
 ▽剣道を通して、礼儀の大切さがわかった。これからの生活に活かしていきたい。

日本武道館に掲揚されている日本最大級の日の丸  
 全日本少年少女武道錬成大会 刺繍旗 **の実績**

社旗 校旗など 各国国旗  
 のぼり・応援幕・バナー  
 タスキ・腕章・半纏など  
 トロフィー・楯・徽章  
 \*デザイン作成もいたします\*

早稲田大学応援部 慶應義塾大学応援指導部 立教大学応援団  
 株式会社 **三上旗店** (創業明治五年)  
 〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-12-6 三上ビル  
 TEL:03-3663-8841 FAX:03-3664-8108 Mai l:info@mikami-flag.co.jp URL:www.mikami-flag.co.jp

6 21年度の成果と課題

(1) 成果

前年度の剣道授業の成果としては、まず、剣道用具及び剣道着・袴や竹刀などの剣道用具が整備され、充実した剣道の学習

が実施可能になったことが挙げられる。前述のとおり、文科省の予算が使用できたことが大きかった。

そして、武道振興事業の推進組織が確立されたために、香川大学教授の山神先生や地域剣道指導者の福原先生などからの助言や指導があり、保健体育科の年間指導計画の中に、剣道領域を位置づけることができた。それに伴い、剣道単元計画や剣道指導計画のモデルを作成できた(資料5、6)。



ゲストティーチャーによる指導の様子

また、地域剣道指導者の福原先生が剣道学習の指導に入ってくれたことよって、地域の剣道指導者と連携しながら剣道授業が進められた。ゲストティーチャーが本校の出身で、70歳を超える地元の剣道の先生ということもあってか、生徒はいつもより熱心に聞いてい

たようだった。さらに、これらの指導を見ることよって、本校体育科教員の剣道学習の指導力の向上にもつながった。

地域としても、剣道の研究授業を実施したことよって、他校の先生方に授業参観をしてもらい、剣道学習に対する理解が得られた。そして、授業感想や剣道学習の指導方法、内容についての意見を出していただき、今後の研究の方向性が把握できた。

(2) 課題

前年度は、1、2年男女に7時間配当としたが、50分の授業では、剣道着・袴や剣道用具の着脱に要する時間が、かかり過ぎた。そのため、今年度は、山神先生のアドバイスにより、2時間連続の授業を5回(計10時間)実施したいと考えている。

地域剣道指導者の福原先生には、前年度は総授業時数にして84時間を指導していただいた。今年度は、授業時数を増加させ



女子は剣道の立ち姿、袴姿の美しさなどを強調すると、興味・関心を持ちやすい

る予定であるが、ゲストティーチャー一人で全部を指導していただくことは時間的に困難な状況になるため、地域武道連携のカリキュラムの見直しも今後の課題となる。

7 まとめ

これまで2年間にわたり、1、2年生男女に、剣道の授業を実践してきたが、学習時間については、7時間では、学習内容の定着の観点から時間不足の感が否めなかった。前述のとおり、とくに剣道着・袴や剣道用具の着脱に多くの時間を要することがわかった。

長年、部活動の指導をしてきたので、剣道具を一人ずつける

のは当たり前だと思っていたが、授業では時間が限られているということもあり、生徒一人では上手くつけられないことがわかった。そこで、ペアになって他者の剣道具の紐を結ぶことから始め、段階的に自分で結べるように指導し、さらに、協力して学ぶことの大切さを気付かせることにした。このように、短い時間でも工夫によっては、教育効果のある授業を展開することができ

る。学習内容では、男女ともに同じ内容で学習させたが、やはり男女の特性をふまえつつ、もう一度学習内容を見直してみたい。たとえば、男子生徒は、その闘争本能からか、面をつけて打つてみたいという者が多く、形稽古をとおして、実際にお互いが自由に打ち合う試合を今後検討したい。

女子は、剣道の立ち姿、袴姿の美しさなどを強調すると、興味・関心を持ちやすいことがわかった。授業では、打ち合うことはせず、形指導を中心に進めていきたい。前年度の女子生徒の指導には、女子担当教員があったが、地域指導者との連携を行うことよって、その教員

空手が強くなりたいたいの

55のルール

これが上達へのキーポイントだ!



好評発売中!

専門家じゃなきゃわからない高度な疑問から、今さら他人には聞けない素朴な疑問まで、55のキーポイントにズバリ解答!

月刊「空手道」編集部・編  
定価: 本体1500円+税 ●B6変型 ●248ページ

株式会社 福昌堂  
東京都世田谷区北烏山3-8-15  
TEL 03-3326-5039  
http://fukushodo.com/